

ふしぎな八つのおとぎばなし

ジョン・エイキン文 / クウェンティン・フレイク絵
こだま ともこ訳

歌をうたう青いくつ、
森をさまようクマと結婚したいむすめ、
宇宙でのサッカーの試合！
謎とユーモアにあふれ
古典の味わいある短編集。

お話は八つ

- ・ 雪深き山をこえて
- ・ 燃えろ、燃えろ
かげぼうし
- ・ メシュリーナ
- ・ バスケットいっぱいの水
- ・ リコリスの木
- ・ 怒り山
- ・ 冬の夜にさまよう
- ・ 落ちてゆく世界をつかまえろ

ISBN978-4-572-00477-2A5判192P小学校低学年から大人まで
定価2,420円(本体2,200円+税)

富山房 〒101-0051東京都千代田区神田神保町1-3 TEL03-3291-2171 FAX03-3291-2179

書店印

ふしぎな八つのおとぎばなし

ISBN978-4-572-00477-2

定価2420円(本体2,200円+税)

冊

富山房



「だあれ？」と、シラはきました。「どこにいるの？」

「ああ、心配しなくてもだいじょうぶ」と、校長先生はいいます。「何年も前に、本のなかでまいごになった小鳥ですよ。そのうちに、出てこられるでしょうから」

「でも、助けていわ」と、シラはいいました。「小鳥さん！小鳥さん！ここへいらっしやい！わたしは、ここよ！」

あっという間に一わの小鳥が、本だなのあいだの隙がりから矢のようにまっすぐ出てきました。青いツバメです。ツバメは、シラの肩にとまりました。

「あなたは、小鳥のことばが話せるんですか？」校長先生は、目をまるくしました。

「この青いくつをはいているときだけ、話せるんです」

シラはそう答えると、ツバメを肩にとまらせたまま外に走り出しました。バナナの木の所で、翼のソロがぐっすりねむっています。

「おやおや！」ソロは、目をさまして、あくびをしました。「どつてもすばら

ふしぎな八つのおとぎばなし見聞き画像



さて、そんな聖イカロスがゴールキーパーからセンター・フォワードにかわる時がやってきました。すべての選手が、こうして決まった瞬間にポジションをかえることになっていたので、聖イカロスは、どうせんのですが、つぎのゴールキーパーのために、ゴールのなかをきれいに、風くすびとつらばってないようにしておきたいと思いました。そして、ゴールのはしからはしまで明かりで照らしながら、はいたり、こすったりしているうちに、毛のようなのが一束、すみのほうにあるのを見つけた。

そこで、ちっちゃな聖イカロスは、その毛を既知れぬやみのなかに投げつけてようと、思いっきり引っぱりました。けれども、そのはずみで、うっかり宇宙の底にある大きなあげぶたを困けてしまったのです。あげぶたの下をのぞいてみると、電線やら、換気器具やらが、ごちゃごちゃとからまっています。それでも、どうにかして毛をとろうと力いっぱい引っぱると、電線が一本よつんと切れてしまいました。たちまち——日もくらむような、すさまじい火花がとびちり、まぶしい光がはじけたとたんに——もつれあっていた電線がいちど